



## FIDO アライアンスが本人確認と IoT に関する新たな取り組みを発表

### FIDO 認証の適用領域を拡大へ

#### (国際版の日本語訳)

本人性（アイデンティティ）に関するエンドツーエンドでのライフサイクル管理上不可欠で  
密接に関連する技術を確認すべく新たな作業部会を結成

2019年6月26日、『IDENTIVERSE 2019』、ワシントン DC 発 - [FIDO アライアンス](#)は、本人確認とモノのインターネット（Internet of Things : 以下、IoT）における2つの新たな技術標準と認定に関する取り組みを発表しました。これらは、FIDO 認証と隣接しながらセキュリティ課題が残っている技術分野にも取り組むことによって、FIDO アライアンスが注力している FIDO 認証の有効性を示し、市場導入の推進をさらに加速させるものです。

具体的には、FIDO アライアンスは、より優れたアカウントリカバリーをサポートするための本人性の確認レベルを強化し、IoT からパスワードの使用を排除するための安全なデバイスオンボーディング（初期設定）を自動化することを目指しています。FIDO アライアンスは、これらの分野でガイドラインと認定基準を確立するために、“Identity Verification and Binding Working Group”（以下、IDWG。本人確認と認証に必要な紐づけに関する作業部会）と“IoT Technical Working Group”（以下、IoT TWG。IoT に関する技術作業部会）の2つの新しい作業部会を設立しました。FIDO アライアンスは、メンバー企業・団体からの貢献によって成し遂げて来たことを特徴としており、現時点のメンバー企業・団体と新たに業界から参加するであろうメンバー企業・団体が共に、ユーザー認証に関する技術標準および関連プログラムの開発とその導入への注力を継続し、その成果をこの拡張作業にも活用して行きます。

FIDO アライアンスのエグゼクティブディレクター兼最高マーケティング責任者であるアンドリュー・シキア氏は、「FIDO アライアンスは、FIDO 認証の標準化を通じて、パスワード問題に対処するために協力してきたさまざまな業界関係者に働きかけてきました。わずか7年間で、それは、コンセプトから主要なブラウザやプラットフォームでサポートされるグローバル [Web 標準](#)へと成長しました。市場における脅威の要因を見てみると、FIDO 認証標準によって提供される高い保証と、アカウントリカバリーのための本人確認や IoT で使用される認証方法との間にはギャップがあることが明らかになりました。このギャップは、サイロ化された独自のアプローチではなく、業界の連携と標準化によって最も効果的に対処できます」と述べています。

## IDWG（本人確認と認証に必要な紐づけに関する作業部会）の概要

FIDO 認証の利用によりフィッシング攻撃やパスワードなどの認証情報に基づく攻撃からアカウントを保護する場合、ユーザーのアカウントの完全性（Integrity）を維持するために、FIDO デバイスが紛失または盗難にあったときのアカウント復旧プロセスが重要になります。ユーザーの本人性を高い確度を持って検証することは、このプロセスの重要な側面です。アカウントの作成プロセス、顧客確認（KYC: Know Your Customer）およびマネーロンダリング防止（AML: Anti-Money Laundering）の要件への適合も同様です。

FIDO アライアンスは、生体情報を用いた「自撮り」マッチングや政府発行の本人確認書類による認証などを含む、リモートで実現可能な所持物ベースの本人確認手法が、新しいアカウントの作成およびアカウントの回復に対する本人確認の品質を大幅に向上させる可能性があるかと認識しました。FIDO アライアンスはまた、正式なガイダンス、性能評価、およびそれらの使用における認定に関する市場ニーズを確認しました。

FIDO アライアンスは、このニーズを満たすために IDWG を設立しました。IDWG は、リモートでの本人確認のための基準を定義し、その基準の適用を支援するための認定プログラムと教材を開発します。

IDWG は、共同座長として Mastercard のロブ・カーター氏、および Onfido Ltd. のパーカー・クロック・フォード氏がリードし、その他の参加団体として Aetna、Google、Idemia、Lenovo、Microsoft、Nok Nok Labs、NTT ドコモ、OneSpan、Phoenix Technologies Ltd.、Visa Inc.、Yahoo! JAPAN、Yubico、そして英国内閣府が含まれています。

## IoT TWG（IoT 技術作業部会）の概要

[ガートナーは、2020 年までに 204 億個もの接続されたモノが利用されるように予測しており](#)、業界全体の効率化と技術革新の機会が広がっています。しかし、IoT のセキュリティ標準の欠如、デフォルトのパスワード情報設定のまま出荷すること、手動による脆弱な設定などの典型的な利用方法などが原因で、デバイスやデバイスが動作するネットワークが[大規模な攻撃](#)にさらされています。

IoT TWG は、FIDO アライアンスの基本的な使命、つまりパスワードレス認証に合わせて、IoT デバイスに包括的な認証フレームワークを提供することで、この問題に取り組むことを目指しています。

本ワーキンググループは、以下をカバーするユースケース、アーキテクチャ、および仕様を策定します：

- サービスプロバイダと IoT デバイス間の相互運用性を可能にするための IoT デバイス証明書/認証プロフィール
- 自動設定での利用、およびアプリケーションやユーザーの IoT デバイスへの紐づけ
- スマートルーターと IoT ハブを介した IoT デバイスの認証とプロビジョニング

IoT TWG は、共同座長として ARM Holdings のマーク・カネル氏および Qualcomm, Inc. のギリダール・マンディーム氏がリードし、その他の参加団体として Google、Idemia、Infineon Technologies、Intel Corporation、

Lenovo、Microsoft、Nok Nok Labs、OneSpan、Phoenix Technologies Ltd.、Yahoo! JAPAN、そして Yubico が含まれています。

### **作業部会への参加にあたって**

IDWG と IoT TWG は現在、業界からの参加に開かれています。FIDO アライアンスのすべてのボードおよびスポンサーレベルのメンバーが FIDO アライアンスの作業部会に参加することができます。FIDO アライアンスへの参加の詳細については、以下を参照してください。

<https://www.fidoalliance.org/members/membership-benefits/>

### **FIDO アライアンスについて**

「高速なオンライン ID 認証」を意味する FIDO (Fast IDentity Online) アライアンス [www.fidoalliance.org](http://www.fidoalliance.org) は、セキュリティと利便性の両立をめざすため、2012 年 7 月に設立されたグローバルな非営利団体です。堅牢な認証技術に相互運用性が確保されていない状況を改善し、ユーザーが多くの ID とパスワードを覚えなければならないという煩わしさを解消することを目的としています。FIDO アライアンスは、認証におけるパスワード依存を軽減するために、オープンで拡張性と相互運用性のあるシンプルで堅牢な「FIDO 認証」を標準化することで、オンラインサービスの本質に変革をもたらします。FIDO 認証はオンラインサービスの利用時に、堅牢でプライバシーが確保された便利な認証を提供します。

### **FIDO アライアンス PR 担当者**

アジア・パシフィック マーケット開発マネジャー

土屋 敦裕

press@fidoalliance.org